建築業界情報誌：Media Report from YKK AP
メディアレポート
2016 3
MARCH
month vol.192

［注目!! わが社の家づくり］森大建地産
高断熱で快適な住環境
愛着持たせ住み継がれる家づくり

［YKK AP の新商品］
APW431大開口スライディング
APW330防火窓（アイテム追加）
APW330用 防汚水切り（枠付タイプ）

［YKK AP News］
APW430が北国の省エネ·新エネ大賞を受賞
ソーシャルメディアで“窓を楽しむ”コンテンツ
全国29会場で「省エネ基準講習会」を開催

［住宅トレンド］
2016年度はリフォーム減税が充実
省エネ、耐震、バリアフリーに加え三世代同居リフォームにも減税措置

CONTENTS

MARCH

03・・・住宅トレンド
省エネ、耐震、バリアフリーに加え
三世代同居リフォームにも減税措置

06・・・注目 !!　わが社の家づくり
森大建地産
高断熱で快適な住環境　愛着持たせ住み継がれる家づくり

08・・・YKK AP の新商品
APW431 大開口スライディング
APW330 防火窓（アイテム追加）
APW330 用 防汚水切り（枠付タイプ）

12・・・YKK AP News
APW430 が北国の省エネ・新エネ大賞を受賞
ソーシャルメディアで " 窓を楽しむ " コンテンツ
全国 29 会場で「省エネ基準講習会」を開催

14・・・クローズアップ
日本人男性の約 4 割、女性の約 3 割が高血圧

16・・・追跡 !!　リフォーム最前線
住まいの暖かさと健康の関係を紹介

17・・・This is YKK グループ
ロンドンにショールームをオープン

18・・・窓通信　最終回
ウェブサイトにて海外レポート最新記事を公開

19・・・建築着工統計調査報告

メディアレポートは再生紙を使用しています。

エコハウス&エコビルディングEXPOに出展

ZEH･ZEBの取り組みを紹介、セミナーの開催も

YKK AP は、3 月 2 ～ 4 日に東京ビッグサイトで開催される「エコハウス＆エコビルディング EXPO」に出展します。高性能建材や住宅設備、HEMS、創エネ・蓄エネ機器など、最新の建材設備が一堂に出展する日本最大級のエコ建築展です。

YKK AP のブースでは、ZEH や ZEB への取り組みを紹介します。APW431 大開口スライディングや、APW430 ツーアクション窓、高断熱玄関ドア（4 月発売予定）などの新商品だけでなく、ビル用商品やリフォーム用商品なども展示します。

また、3 月 4 日には、窓研究所所長の山本絹子によるセミナー「" 窓を考える会社　YKK AP" の取組み～豊かな住環境の実現に向けて～」と題したセミナーも開催します。

環境に配慮した住まいにおいて、「窓」の果たす役割は重要性を増してきており、講演では住環境を支える窓の役割と世界の潮流についてご紹介します。さらに YKK AP が提案する高性能窓の紹介や、それらを支える技術、また、今後の展望についても紹介します。

ぜひ、会場に足をお運び下さい。

エコハウス&エコビルディングEXPO
開催スケジュール

日時：3月2日(水)～4日(金)
10:00～18:00(最終日は17:00まで)

会場：東京ビッグサイト

特別講演：各界のトップが語る高性能建材・設備事業の将来展望

講師：YKK AP　窓研究所所長　山本絹子

内容："窓を考える会社　YKK AP"の取組み～豊かな住環境の実現に向けて～

日時：3月4日(金)13:00～15:00
無料(事前申込制)

住宅トレンド

2016年度はリフォーム減税が充実

省エネ、耐震、バリアフリーに加え三世代同居リフォームにも減税措置

2016 年度の税制改正大綱では、課題となっている空き家対策に加え、世代間の助け合いによる子育てを支援するため、3 世代同居に対応するリフォームに対して特例措置が創設される。省エネや耐震、バリアフリーリフォームに係る所得税の特別控除制度に、新たに三世代同居リフォームが加わる。また、リフォームに関しては、来年度で期限切れを迎える省エネや耐震、バリアフリーリフォームに関する固定資産税の特別控除制度についても、見直しを加えたうえで 2018 年 3 月末まで延長した。

政府・与党が2016年度の税制改正大綱を決定した。

住宅関連では、「空き家に係る譲渡所得の特別控除の特例」が新たに創設された。被相続人が居住していた家屋で、1981年5月31日以前に建築（旧耐震基準）された住宅が対象となる。

相続時から3年が経過した年の12月31日までに土地を売却、または土地と家屋の両方を売却した場合、譲渡所得から3000万円を控除する。家屋の除却をした後に土地を売却した場合も同様の控除を行う。ただし、売却額が1億円を超えるものは対象外。相続時から売却時までの間、事業用、賃貸用、居住用として利用されていないことが要件で、住宅を売却する場合は、売却時までに新耐震基準に適合する改修を行う必要がある。適切な管理が行われていない空き家が地域住民の生活環境に悪影響を及ぼしていることを踏まえた措置である。

「希望出生率1.8」の実現に向け二世帯住宅化を目的としたリフォームを促進

さらに、国土交通省では、リフォームを対象とした特例として、三世代同居に対応したリフォームに関し自己資金や借入金を利用してリフォームを行った場合の税額控除制度を新たに導入する。出産や子育ての不安や負担を軽減することが重要な課題となっているなか、世代間の助け合いによる子育てを支援する狙いだ。2015年夏に同省が財務省に提出した2016年度の税制改正要望にはなかったものだが、安倍政権の指示もあり、新規で盛り込まれた。安倍政権は2015年9月に「一億総活躍社会」の実現に向け、今後の経済成長のエンジンとして「新・三本の矢」を発表。このなかで「夢をつむぐ子育て支援」を掲げ、「希望出生率1.8」が適う社会の実現を目標に据えた。そこで、三世代同居・近居の推進を国交省に指示。今回の三世代同居リフォームに対する減税措置が創設された。

具体的には、すでにある省エネや耐震、バリアフリーリフォームに係る所得税の特別控除制度に、三世代同居対応工事を新たに加える。2016年4月1日から2019年6月30日までに実施したリフォームが対象となる。控除の対象となるのは、「キッチン」、「浴室」、「トイレ」または「玄関」のいずれか2つ以上が複数ヶ所になる工事を実施する必要がある。

自己資金でリフォームする投資型の場合、工事費用相当額（上限250万円）の10%を所得税額から控除する。つまり最大25万円控除されるわけだ。ただし、所得が3000万円を超える場合は対象外。

一方、ローンを利用するローン型（上限1000万円）では、三世代同居対応工事費用（上限250万円）を対象に、最長5年間、年末残高の2.0%を控除する。三世代同居対応工事費用以外でローンを利用している部分（上限750万円）についても年末残高の1.0%を控除する。最大で62.5万円が控除される。

省エネ、耐震、バリアフリーリフォームの特別控除、住宅ローン減税も2019年6月末まで利用可能

ちなみに、省エネリフォーム（特定断熱改修工事）については、投資型の場合、補助金などを除いた標準

表① リフォーム減税の種類

制度		省エネ	耐震	バリアフリー	三世代同居
所得税控除	投資型	○	○	○	○
	ローン型	○	—	○	○
	住宅ローン減税	○	○	○	—
固定資産税減額		○	○	○	—

表② リフォーム減税【投資型】

	限度額	控除率	最大控除額
省エネ	250万円	10%	25万円
耐震	250万円	10%	25万円
バリアフリー	200万円	10%	20万円
三世代同居	**250万円**	**10%**	**25万円**

表③ リフォーム減税【ローン型】

	限度額	控除率	最大控除額
省エネ	250万円	2.0%	62.5万円（5年間）
バリアフリー	250万円	2.0%	
三世代同居	**250万円**	**2.0%**	
その他工事	750万円	1.0%	

的な工事費用相当額（上限250万円）の10%が所得税から控除される。最大で25万円控除されるわけだ。特定断熱改修工事に太陽光発電装置の設置を加えると上限が350万円となり、最大35万円が控除される。

ローン型の場合は、借入金の年末残高1000万円以下の部分について5年間、特定断熱改修工事に相当する部分（上限250万円）の2.0%を所得税から控除する。特定断熱改修工事以外でローンを利用している部分（上限750万円）についても1.0%を控除する。

対象となるには、すべての居室の窓全部の断熱工事または、それと併せて行う床の断熱工事、天井の断熱工事、壁の断熱工事で、改修部位がいずれも平成25年省エネ基準（外皮のみ）相当の省エネ性能となること、補助金などを除いた省エネリフォーム工事費用が、50万円を超えていることといった要件をクリアする工事でなければいけない。

耐震リフォームは、1981年5月31日以前に建築（旧耐震基準）された住宅を、現行の耐震基準に適合させるリフォームを行った場合に、標準的な工事費用相当額から補助金などの金額を引いた額（上限250万円）の10%を所得税から控除するもの。

バリアフリーリフォームの場合は、投資型では、補助金などを除いた標準的な工事費用相当額（上限200万円）の10%を所得税から控除する。

ローン型では、控除対象額1000万円を上限に5年間、リフォーム工事費用（上限250万円）の2.0%を所得税から控除する。バリアフリー改修工事以外でローンを利用している部分（上限750万円）の1.0%を控除する。

このようなリフォームに係る所得税の減税措置制度に、三世代同居リフォームが加わることになるのだ。

このほか、住宅ローン減税も新築だけでなく、リフォームにも適用される。償還期間が10年以上の借入金で住宅を増改築した場合、年末のローン残高（控除対象借入限度額4000万円）の1.0%が10年間、所得税から控除される。つまり、最大400万円が控除される。前年分の所得税から控除しきれない場合は、翌年度の住民税から控除を受けることができる。この場合の控除限度額は13.65万円。

リフォームに係る所得税の控除制度、住宅ローン減税のいずれも期限は2019年6月30日までとなっている。

固定資産税の減額措置は2018年3月まで延長

また、省エネや耐震、バリアフリーリフォームに対する減税措置には、固定資産税の減額もある。これらは2015年いっぱい、もしくは2015年度いっぱいで期限切れを迎えることになっていた。2016年度の税制改正大綱では、これらの内容を見直すとともに、期限を延長した。

省エネリフォームを行った住宅に係る固定資産税の減額措置は、省エネリフォーム工事を行った場合、その住宅にかかる翌年分の固定資産税額が1年間、3分の1に減額されるもの。該当する住宅の120㎡相当分までが減額対象となる。

対象となるには、すべての居室の窓全部の断熱工事または、それと併せて行う床の断熱工事、天井の断熱工事、壁の断熱工事で、改修部位がいずれも平成25年省エネ基準（外皮のみ）相当の省エネ性能となることといった要件をクリアする工事でなければいけない。

今回、床面積要件として「改修後の住宅の床面積が50㎡以上になること」を追加した。

さらに、「省エネリフォームの工事費用が50万円を超えていること」という工事要件について、「省エネ

表④ リフォームに係る減税措置のタイムスケジュール

		2016年	2017年	2018年	2019年	適用期限
住宅ローン減税 所得税	所得税額控除 最大400万円					2019年 6月末
省エネリフォーム 所得税（投資型）	所得税額控除 最大25万円					2019年 6月末
省エネリフォーム 所得税（ローン型）	所得税額控除 最大62.5万円					2019年 6月末
耐震リフォーム 所得税（投資型）	所得税額控除 最大25万円					2019年 6月末
バリアフリーリフォーム 所得税（投資型）	所得税額控除 最大20万円					2019年 6月末
バリアフリーリフォーム 所得税（ローン型）	所得税額控除 最大62.5万円					2019年 6月末
三世代同居リフォーム 所得税（投資型）	所得税額控除 最大25万円	4/1より				2019年 6月末
三世代同居リフォーム 所得税（ローン型）	所得税額控除 最大62.5万円	4/1より				2019年 6月末
省エネリフォーム 固定資産税	固定資産税 1/3減額	延長 3/31まで				2018年 3月末
耐震リフォーム 固定資産税	固定資産税 1/2減額	延長				2018年 3月末
バリアフリーリフォーム 固定資産税	固定資産税 1/3減額	延長 3/31まで				2018年 3月末

リフォームの工事費用が50万円を超えていること（国または地方公共団体からの補助金等をもって充てる部分を除く）」とした。

そのうえで、適用期限を2年延長した。

また、バリアフリーリフォームの場合も、住宅にかかる翌年分の固定資産税額が1年間、3分の1に減額される。該当する住宅の100㎡相当分までが減額対象になる。

対象となる住宅について、「2007年1月1日以前に建てられた住宅」となっていたが、今回「新築から10年以上経過した住宅」に見直した。さらに「改修後、床面積が50㎡以上になること」も要件に加えた。工事費要件についても、「地方公共団体からの補助金等で充てる部分を除く50万円超」としているものを、「国または地方公共団体からの補助金等で充てる部分を除く50万円超」とした。

こうした見直しを行ったうえで、適用期限を2年延長した。

耐震リフォームを行った住宅の固定資産税の減額措置は、耐震リフォームを行った場合、その住宅にかかる翌年分の固定資産税を1年間、2分の1に減額するもの。該当する住宅の120㎡相当分までが減額対象となる。

こちらは2015年12月31日で期限切れとなっていた。今回、適用期限を2年3カ月延長した。

3つの減税措置についてそれぞれ適用期限を延長したことで、3つとも期限が2018年3月末で揃った。

住宅ローン減税などの省エネ改修工事に係る省エネ要件の緩和措置は終了

新たに創設したり、適用期限を延長する一方で、縮減されたものもある。

省エネリフォーム（特定断熱改修工事）に係る所得税の特別控除制度では、対象となる工事の要件のひとつとして、「リフォーム後の住宅全体の省エネ性能が、リフォーム前から一段階相当上がると認められる工事内容であること」がある。しかし、2015年12月31日までは、特定断熱改修工事以外については、リフォーム後の住宅全体の省エネ性能がリフォーム前から一段階相当上がらない場合でも、工事の対象となる緩和措置が設けられていた。同様の緩和措置は、住宅ローン減税の対象となる一定の省エネリフォームにも設けられていた。この省エネ要件の緩和措置は、いずれも2015年12月31日までが適用期限となっていたが、今回の税制改正大綱で、適用期限の到来とともに廃止となった。

2016年度からは、期限切れを迎えていた省エネや耐震、バリアフリーリフォームに係る特別控除制度が延長されたことに加え、三世代同居リフォームの特別控除制度も創設され、リフォーム関連の減税措置が拡充される。住宅事業者は自社のリフォーム事業を拡大するためにも、施主へのリフォーム提案に活かしていく必要がありそうだ。

代表取締役
森 秀樹

森大建地産 株式会社

〒518-1414 三重県伊賀市猿野1238
0120-48-0336・TEL0595-48-0331　FAX0595-48-0333
http://www.mori-dai.com

高断熱で快適な住環境 愛着持たせ住み継がれる家づくり

三重県伊賀地域を中心に地域に密着した家づくりを行っている森大建地産は、樹脂窓を導入するなどし、高断熱で快適な住環境の提供に取り組んでいる。快適で居心地の良い住まいを供給することにより、住まい手が愛着を持ち、次代に住み継がれる家づくりを目指している。

――森大建地産の家づくりのこだわりについて、教えてください。

森　森大建地産は昭和45年の創業で、私は2代目です。

エンジニアードウッドと金物、パネルを利用した木造軸組工法による「TESHIOの家」という注文住宅を中心に年間30棟くらい手掛けています。

“子どもを手塩に掛けて育てる”という言い方をしますが、それと同じように住宅も手塩に掛けて育てるという気持ちを込めて「TESHIOの家」と名付けています。

一方で、子どもを育てる際には“しつけ”も大事ですよね。住宅に置き換えてみると、基本性能が言わばこの“しつけ”にあたるのではないでしょうか。基本性能という“しつけ”が為された住宅だからこそ、自信を持ってお施主様に引き渡すことができますし、お施主様が住まわれた後の安心も担保できると私は思っています。

基本性能については、長期優良住宅認定に適合するレベルを標準としていますが、特に断熱・気密性能には力を入れています。

具体的には、研究者や住宅・建材生産者団体の有志などから構成されている「HEAT20」が提唱している断熱性能グレードのG1水準くらいのレベルを目指しています。これは国の省エネ基準の上をいくレベルです。

――三重というと、北海道や東北地方ほどは寒くないというイメージですが、どうしてそこまで断熱性能にこだわるのですか。

森　快適な住宅を提供していきたいという想いがあるからです。

実は、緯度の割に三重県は意外と寒い。さらに、伊賀地域は山に囲まれた内陸部なのでなおさら寒い。冬には雪が降るほどです。このため、断熱性能にこだわる必要があるのです。

また、私たちは住み継げる住宅を目指しています。もっと言うと、住み継げる住宅を作っていくことで、地域を次の世代に引き継いでいきたい。そのためには、快適性が重要だと思っています。

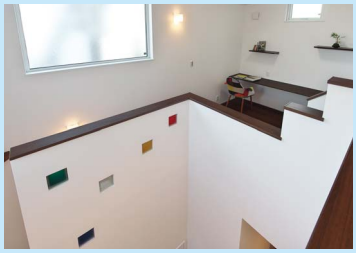
私たちが住宅作りを行っている伊賀地域は日本の他の多くの地域と同じように、過疎化が進んでおり、今のまま放っておいたら人口が減少するばかりです。さらに、国は交通の便利な都市部に人口を集中させるコンパクトシティ化という政策を掲げており、このままでは人口が都市部に集中して、もっと伊賀地域の人口が減少していくでしょう。

若い人がずっと伊賀地域で暮らしたい、あるいは、都市部に出た若い人が伊賀地域にまた帰ってきたいと思うためには、どういったことが必要でしょうか。住宅という観点から言えば、私は愛着を持ってもらえる住宅が必要ではないかと思っています。

それでは、愛着を持ってもらえる住宅とはどういったものでしょうか。私は「快適な住宅」だと思います。寒くて居心地の悪い住宅には住んでいたいと思いませんし、帰ってきたいとも思いませんよね。快適ではない住宅には愛着がわかないのです。

このため、自分の住む住宅、ひいては地域に愛着を持ってもらうために、高い断熱性能が重要だと思うわ

森大建地産の住宅では、YKK APの樹脂窓「APW330」と「APW430」を採用。
樹脂窓を採用することにより、断熱性を確保しながら、大開口を実現。室内に光を多く取り入れることで、室内空間に体感的な温かみを出そうとしている



けです。

――高い断熱性能を実現するために、具体的にはどのような取り組みを行っていますか。

森　伊賀地域の中にいては、住宅についての最新事情が分かりませんので、私は高断熱住宅を推進する（一社）パッシブハウスジャパンや、（一社）パッシブデザイン協議会などのセミナーに出掛けて行くようにしています。

そういったセミナーに参加し、いろいろと勉強していく中で、高断熱住宅を実現するためには、まず最初に窓の断熱に取り組んでおかなくてはならないと思うようになりました。それは、住宅における熱損失において、窓から外に出ていく分が最も大きいからです。

このため、私たちは窓の断熱性能を高めるために、樹脂窓を導入しています。現在、私たちが建築している住宅には、樹脂窓「APW330」を標準で採用しています。さらに、北側や東側など、特に気温が下がりやすい部屋には、トリプルガラスでさらに性能の高い樹脂窓「APW430」も部分使いするといったことも行っています。特に必要な部分には、「APW430」を使うことで、メリハリを持たせる。そうすることで、お施主様へコストの負担をかけすぎずにトータルで高い断熱性能を実現することができます。

私たちは三重県でも早い時期から窓の断熱化に着目し、最も早くYKK APの樹脂窓を採用したのではないでしょうか。YKK APの樹脂窓を採用している理由の一つは“安心”ですね。APWが発売される以前にも海外製の樹脂窓がありましたが、採用するのが不安でした。それは、施工時や施工後のサポートにおいて心配だからです。YKK APは信頼できる窓の大手メーカーですので、安心して使うことができると思っています。

一方で、樹脂窓を導入するメリットは断熱だけではないと思っています。私たちの住宅では、開口部を大きく自由にとりたいと思っています。そうすることで、窓から見える風景を室内に取り込めますし、室内に光を多く取り入れることで、室内空間に体感的な温かみが出てきます。

しかし、開口部を大きく取ると、窓からの熱損失量も大きくなります。そこで、窓の断熱性能が重要になってくる。その点、樹脂窓なら開口面積を大きくしても断熱性能が担保できるので、安心して自由に開口を取ることができます。

――今後はどういった家づくりに取り組んでいかれますか。

森　さらに、高断熱・高気密な家づくりを進めていきたいですね。加えて、太陽光発電も併せて提案することで、ゼロエネ住宅も推進していきたいと思っています。

一方で、高断熱・高気密になればなるほど、室内空気環境の質が重要になってきます。例えば、高断熱・高気密の住宅においては、壁に珪藻土を使った部屋とビニールクロスを使った部屋とでは、明らかに室内の空気が違います。高断熱・高気密と室内空気環境の関わりは強い。このため、両方の取組みを一体的に進めていかなければいけないと思っています。

YKK APの新商品

APW431大開口スライディング、APW330防火窓（アイテム追加）、APW330用 防汚水切り（枠付タイプ）

YKK APは、樹脂窓のAPWシリーズに、APW431大開口スライディング、APW330防火窓（スリット窓サイズ追加・オペレーターハンドル仕様追加）、さらに付加価値を高めるオプションとしてAPW330用　防汚水切り（枠付タイプ）を発売しました。家一棟のローエネ提案の核となる樹脂窓が、さらに充実しました。

APW431 大開口スライディング

APW330 防火窓（スリット窓サイズ追加・オペレーターハンドル仕様追加）

APW330用 防汚水切り（枠付タイプ）

APW431 大開口スライディング

YKK APは、「小エネ（ローエネ）で暮らそう」を提案しています。自然エネルギーをうまく活用し、小さなエネルギーでも快適な暮らしを実現しようというものです。このローエネを実現する商品の核となるのが高性能樹脂窓APWです。

今回、新たに高性能トリプルガラス樹脂窓「APW431大開口スライディング」を開発しました。

日本の住宅に欠かせないスライディングですが、内側や外側に開閉するプロジェクト窓に比べて、「断熱・気密性能が低い」「開閉力が重い」など課題がありました。「APW431大開口スライディング」では、構造を一から見直し、こうした課題を解消。季節・エリアを問わず快適な暮らしの実現に寄与するアイテムとしてご活用いただけます。また、既存の高性能樹脂窓と組み合わせることで、住宅1棟分の窓を、求められる機能・性能に応じて使い分けいただけます。

Point 優れた断熱性能・気密性能を付加

熱貫流率※ 0.98 W/(㎡·K)

日遮熱取得率 0.47

気密性能※ 0.41 (A-4) ㎥/(㎡·h)

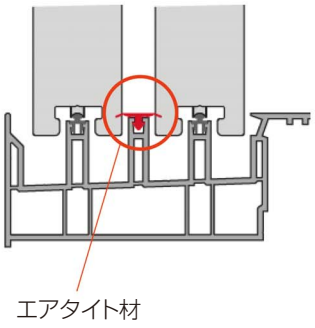
アルゴンガス入トリプルガラスを採用。性能を最大限生かす16mmの空気層と総厚41mmのガラスを組み合わせました。これにより、16520サイズで0.98W/㎡・Kという優れた断熱性能を実現。
また、ガラスも自社で生産することで、断熱性能を高めながら、日射熱取得率を向上させることに成功しました。
さらに、0.41㎥/㎡・hという優れた気密性能も実現。これは従来の引違い窓の約5分の1です。

※性能試験による

Point 軽い力で開く&動く

YKK AP独自の“スムースフィット機構”

■従来の樹脂窓（引違い窓）



可動障子にエアタイト材が
擦れるため動きが非常に重い

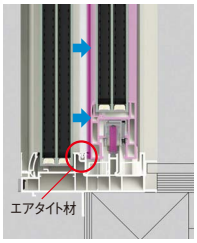
■今回の機構

ポイント

【4連可傾（かけい）戸車】特許申請中

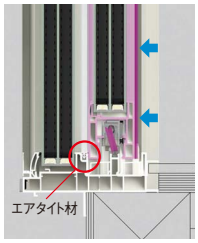
「開閉時⇒垂直」＋「施錠時⇒室内側に傾く」
スムースな開閉と高い気密性を実現!

開閉時



枠に密着した障子が室内側に
動くことでエアタイト材から離れる

施錠時



障子が枠側に引き寄せられ
エアタイト材と密着

従来の引違い窓では、開閉の際も障子が気密材と接しているため、これが抵抗となり開閉力が重くなる原因となっていました。対して「APW431大開口スライディング」では、ハンドルを倒すことで、障子が気密材から離れることにより、抵抗がほとんどない軽い操作性を実現しました。

「APW431大開口スライディング」の軽い操作性を実現する、肝となるアイテムが障子の下に搭載した「4連可傾戸車」です。
開閉に合わせて「戸車が立つ」「戸車が倒れる」ことで、軽い操作性と、高い気密性を両立させました。

開閉に必要な力は
従来の引違い窓に比べ
1/10
（摺動時）
50N※▶5N
※JIS開閉基準による

サポートハンドル操作方法

「APW431大開口スライディング」は、開閉をアシストする独自の「サポート機構」を採用し、優れた開閉性を実現しました。
開閉に必要な力は従来の引違い窓に比べて10分の1。16520サイズの窓の場合、50N（5kg）で開閉していたものが5N（500g）の力で開閉可能で、今までにない軽い操作性を実現しました。
また、簡単に指をかけられる取手を採用、子どもから大人まで、スムーズな操作が可能です。

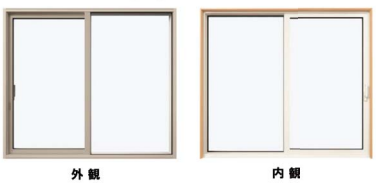
Point 片引きにより採光性・眺望性を向上

片引き窓を採用することで、採光性・眺望性の向上を図りました。
従来の引違い窓に比べて採光面積は約20%アップしています。

ラインアップ

偏芯タイプ

均等タイプ



最大サイズ：W3000×H2470（オーダー）

偏芯タイプと均等タイプをご用意し
住宅の外観スタイルに合わせてお選びいただけます。

APW330 防火窓(アイテム追加)

YKK APでは、APW330の防火対応品のラインアップの拡充を進めています。防火対応の樹脂窓をそろえているのは当社のみ。関東、中部、関西などの大都市圏では2割以上の比率で防火設備が必要ですが、こうした地域でも弊社の防火対応樹脂窓をご使用いただけます。

今回、新たにたてすべり出し窓・すべり出し窓・FIX窓「スリットサイズ」と、防火対応樹脂窓としては業界初の仕様のたてすべり出し窓・すべり出し窓「オペレーターハンドル仕様」をラインアップ。主に都市部の戸建て住宅でニーズの高い窓種を防火対応樹脂窓でも追加しました。

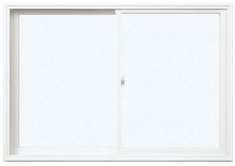
Point 家一棟に対応可能な豊富なラインアップを用意

スリット窓や、オペレーターハンドル使用を追加したことで、防火対応樹脂窓のラインアップは、全17種に。
家一棟分に対応可能。求められる機能や性能に応じて使い分けいただけます。

たてすべり出し窓
(グレモンハンドル仕様)

すべり出し窓
(グレモンハンドル仕様)

FIX
(窓サイズ・テラスサイズ)


引違い窓／面格子付引違い窓

シャッター付引違い窓
手動／リモコン電動

片上げ下げ窓

たてすべり出し窓
＋
FIX連窓(2連窓)

すべり出し窓＋FIX連窓
(2連窓)

高所用換気窓
(すべり出し窓タイプ)
手動／電動

12月発売

たてすべり出し窓
(スリットサイズ)

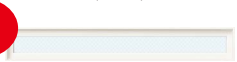
1月発売

たてすべり出し窓
(オペレーターハンドル仕様)

シャッター付引違いテラス戸
手動／リモコン電動

開き窓テラス
(シリンダー有／無)
非常用進入口対応規格

12月発売


FIX(スリットサイズ)

12月発売

すべり出し窓(スリットサイズ)

1月発売

すべり出し窓
(オペレーターハンドル仕様)

Point 高いデザイン性を付与　配置も組み合わせも自由自在

デザイン性が高く、配置や組み合わせも自由に行えるスリット窓。窓の高さで光を演出したり、風を取り込みやすくしたりすることも可能です。

Point 手の届きにくいところにも設置可能

ハンドルを回すだけで開閉できるため、窓の前に障害物がある場合でも外に身を乗り出さずに開閉可能です。

APW330用 防汚水切り（枠付タイプ）

YKK APは、2015年11月に「APW330用　防汚水切り」（枠付タイプ）を発売しました。

近年、住宅スタイルはシンプルなものが主流となり、外壁色もホワイトに近い色合いへとシフトしています。デザイン面から外観のアクセントとなる窓の存在感が、より強調されてきているといっていいでしょう。また、外壁材の一つのトレンドとして「防汚機能」がクローズアップされてもいます。“汚れづらい”ことが外壁の基本性能の一つとして求められており、光触媒などの技術を用い、美しさを長持ちさせる商品開発が活発に行われています。

たてすべり出し窓へ設置したイメージ

しかし、窓下部の黒ずんだ汚れがこうした美観を台無しにします。砂やホコリが混じった雨水が窓枠を伝って外壁を汚してしまうのです。

「APW330用　防汚水切り」は、窓の下枠と水切りを一体化させた商品（オプション）です。外壁の汚れを防止するだけでなく、意匠的にもスッキリしており住宅の外観デザインを損ないません。さらに簡単に施工できることも大きな特長です。

Point 外壁の汚れを防止

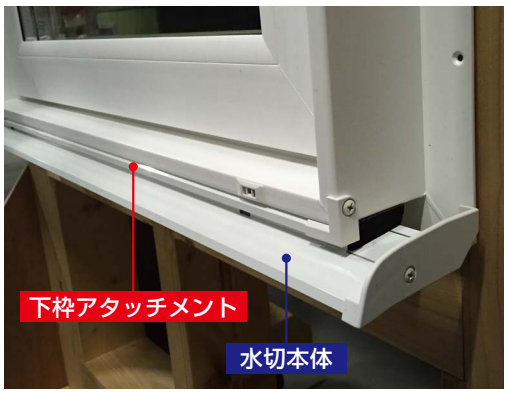
窓を伝って流れる砂やホコリが混じった雨水により外壁が汚れるのを防ぎます。特にホワイト系の外壁には効果があります。住宅の外壁をキレイに保つことで美観も維持することができます。

外装の汚れイメージ

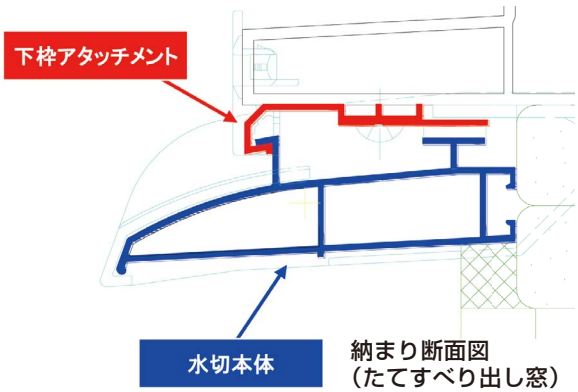
Point スッキリとした水切り意匠

窓の下枠と一体化しているため、窓本体の意匠を損なうことがありません。テラス系と防火窓を除き、引違い窓、たてすべり出し窓、片上げ下げ窓と、主要な窓種にて採用することができます。カラーもAPW330の外観色にあわせホワイト、ステン、ブラウンの3色を揃えました。

Point 現場での簡単施工



APW330の下枠部に水切り本体を取り付ける構造です。
窓本体に下枠アタッチメントを設置した状態で出荷します。施工現場では、このアタッチメントにひっかけて取付けるだけの簡単施工です。
外壁厚が30～55㎜の範囲であれば、外壁からの出幅30㎜を確保します。



納まり断面図
（たてすべり出し窓）

商品企画部　窓・住宅商品企画グループ
樹脂窓商品室
沢井 千尋　竹原 立明　浅見 周司

YKK APは、2009年に樹脂窓APW330を発売以降、窓の基本性能を高める取り組みを続けてきました。モノづくりにこだわり、「小エネ（ローエネ）で暮らそう」をコーポレイトアイデンティティに掲げるなか、常に樹脂窓の進化を推し進め、樹脂窓のバリエーション展開を広げてきました。

今回、生活者の使い勝手にこだわり、利便性や操作性を高める新機能・新機構の追加を狙った商品が「APW430 ツーアクション窓」「APW431大開口スライディング」です。

また、防火地域でのご要望に応えるため、APW330防火窓も発売し、樹脂窓のバリエーションをさらに広げました。また、APW330防汚水切りは、住まいの外観の汚れを防ぎ、意匠性だけでなく住まいの価値を維持し続けるものだと思っています。

YKK APは、今後も樹脂窓の進化をさらに進め、驚きと感動のある窓づくりに取り組んでいきます。

YKK AP News

APW430が北国の省エネ・新エネ大賞を受賞

こだわりの製品として「北のブランド2016」の認定も

高性能トリプルガラス樹脂窓「APW430」が平成27年度「北国の省エネ・新エネ大賞」（開発・製造・普及部門）を受賞しました。さらに札幌商工会議所により「北のブランド2016」の認証も受けました。

「北国の省エネ・新エネ大賞」の授賞式と盾

APW430が各方面で高い評価を受けています。

経済産業省・北海道経済産業局による平成27年度「北国の省エネ・新エネ大賞」（北海道経済産業局長表彰）の開発・製造・普及部門を受賞しました。この賞は、北海道における省エネルギー・新エネルギーに関する開発、有効利用及び普及に関し、著しい成果及び功績があり、他の模範となる組織、個人を表彰することによって、省エネルギーの推進、新エネルギーの導入を加速させることを目的に実施されるものです。

APW430は世界最高クラスの断熱性能に加え、複層ガラスと同等の日射取得率の性能を併せ持っています。窓から熱を逃がさず太陽熱を取り込むことで住宅の暖房エネルギーを10%以上削減し、窓の結露も大幅に低減。また、北海道で生産される商品として住宅の快適性向上と暖房費削減に貢献することなどが評価されての受賞となりました。

さらに札幌商工会議所による「北のブランド2016」の認証も受けました。「北のブランド」は、札幌市内及び北海道内の札幌商工会議所会員企業などがこだわりをもって独自の技術で開発した製品や技術の販売を支援するもの。「優れた技術やこだわり」、「市場における製品・技術の高い評価」、「市場での将来性」という3つの基準で審査を行い、優れたものを認証します。

YKK APは、今後も優れた省エネ性能を持つ商品の開発に取り組み、自然環境と調和する“モノづくり”を追求していきます。

北のブランド2016のホームページ
http://www.sapporo-cci.or.jp/north-brand/index.php

高性能トリプルガラス樹脂窓「APW430」

世界トップクラスの断熱性能

トリプルガラスの空気層に断熱性能を高めるアルゴンガスを注入し、ダブルLow-Eトリプルガラスを採用することで世界トップクラスの断熱性能、熱貫流率（U値）：0.91 W/(㎡·K) を実現しました。

デザイン

スリムなフレームデザインでガラス面積も大きく取れ、たて・よこのフレームサイズを統一し、窓に統一感のある美しい住宅の外観を実現しました。

快適性を高める機能

“内倒し”“内開き”の2つの開き方が可能な「ツーアクション窓」は、適度な通風・換気や、安全なお掃除環境を実現。また、より高い通風機能を持つ「ウインドキャッチ連窓」も取り揃えました。

YKK AP News

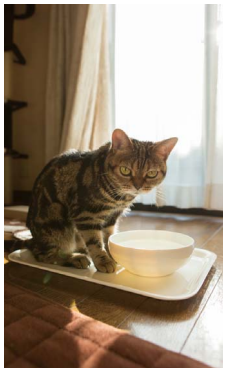
ソーシャルメディアで“窓を楽しむ”コンテンツ

Facebook、Google+、YouTubeの公式アカウントを開設

新たなコミュニケーションツールとして、Facebook、Google ＋、YouTube の公式アカウントを昨年 11 月に開設しました。この３つのメディアで “ 窓を楽しむ ” コンテンツを提供していきます。

日常生活のなかでより親しみやすいソーシャルメディアを活用し、お客様の視点に立って、身近なYKK APに関する最新情報をお届けします。これまでホームページだけではお伝えしきれなかった、窓やドアにまつわる生活に密着した情報はもちろん、TVCMの舞台裏や、窓に関するさまざまなコンテンツを提供。ソーシャルメディアならではの柔軟性を活かし、WEBサイトと連動して“窓を楽しむ”高品質なコンテンツを配信していきます。是非、ご活用下さい。

YKK AP Facebookトップ画面


ねこまど

マド予報・脱力イラストシリーズ

TVCM映像

世界の窓

コンテンツ

- 商品CMのほか、「YKK AP＝窓」をイメージ訴求した人気企業CMを公開
- YouTube限定コンテンツとして、各種TVCMのメイキングや特別編集編を公開
- 話題アニメーターのシシヤマザキ氏のオリジナルアニメを公開
- 毎日新聞に連載中の「マド予報」を定期配信
- BS-TBS「世界の窓」の番組告知
- 「窓と絵画」、写真「世界のドア」、「ねこまど」窓辺の空間づくりに関する情報を発信

Facebook	https://www.facebook.com/ykkapjapan
Google+	https://plus.google.com/113884922108242853316/about
Youtube	https://www.youtube.com/channel/UCwPjVfPm6IODmjGrkSNcGUw

YKK AP News

全国29会場で「省エネ基準講習会」を開催

国交省の中小工務店サポート支援事業に参画

YKK APは、国土交通省の住宅市場整備推進等事業における「中小工務店への講習会及び適合証明サポート支援事業」について採択事業の決定を受け本支援事業へ参画。全国で中小工務店向けの省エネ基準講習会を開催しました。

「中小工務店への講習会及び適合証明サポートサービス支援事業」は、平成25年省エネ基準の適合率の向上を目的に、中小工務店の方々への講習会および適合証明などの取得申請のサポートを実施する設備・建材メーカーなどの取り組みに対して、費用の一部を補助するもの。YKK APは、この事業の採択を受け、ほかの専門メーカーや団体と連携し、中小工務店の需要にきめ細かく対応したプログラムを実施、昨年12月から今年2月にかけて全国29会場※で省エネ住宅講習会を開催しました。講習会では、「省エネ基準クリアレベル」、「低炭素基準クリアレベル」、「ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)基準クリアレベル」の3段階の適合レベルごとに、無理なく実施できる「標準仕様」構築に向け、樹脂窓の活用も含めたアドバイスを行いました。

また、平成25年省エネ基準適合に向けたガイドブックの提供も行いました。

12月に行った省エネ基準講習会の様子

※2015年12月時点採択分

クローズアップ

厚生労働省が「国民健康・栄養調査」の結果を発表

日本人男性の約4割、女性の約3割が高血圧

厚生労働省が2014年の「国民健康・栄養調査」の結果を発表している。このうち、血圧に関する状況では、最高血圧の平均値は男性、女性ともこの10年で低下する傾向にあるものの、男性の36.2%、女性の26.8%が高血圧となっていることが判明した。

厚生労働省が2014年の「国民健康・栄養調査」の結果をとりまとめている。全国の5432世帯を対象に調査したもので、有効回答世帯数は3648世帯。

このなかで「身体状況及び糖尿病等に関する状況」で「血圧に関する状況」（20歳以上の男女）を調べている。収縮期（最高）血圧の平均値は、男性が135.3mmHg、女性が128.7mmHgで、男性は前年同様、女性は前年の129.5mmHgと比べて低下している。10年前（2004年）は、男性が136.4mmHg、女性は129.7mmHgであったことから、この10年で男女とも最高血圧は低下している。

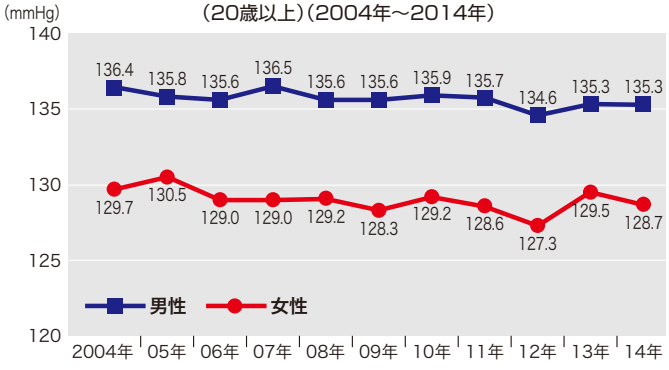
また、高血圧と診断される最高血圧が140mmHg以上の人の割合を見ると、男性では36.2%を占め、女性では26.8%を占めた。10年前（2004年）と比べると共に減っているものの、今も男性の約4割、女性の約3割が高血圧となっている。

血圧が高くなると心筋梗塞や脳梗塞などの循環器系の病気になるリスクが高まる。血圧は健康に与える影響が非常に大きいのだ。

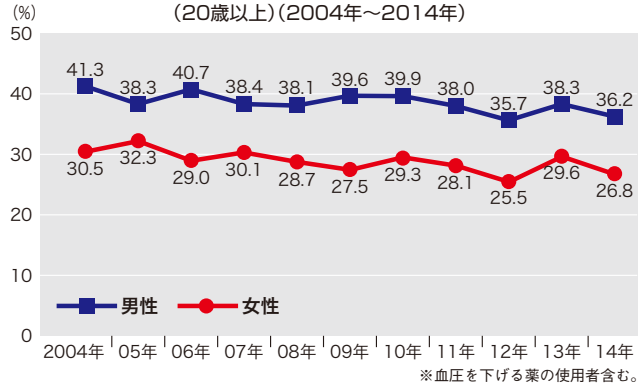
住宅を暖かくすると血圧を低く抑えられる研究結果も

そうしたなか、住環境と血圧の関係についても最近の研究で明らかになってきている。自宅で心筋梗塞や脳梗塞で亡くなった人の統計を見ると、寒い時期に暖かい時期の2倍程度多くなっている。これは住宅の寒さが影響しているようだ。つまり、寒い時期でも住宅の中が暖かく保たれていれば、心筋梗塞や脳梗塞を発症するリスクを減らせるわけだ。実際に、山口県で行った調査では断熱していない住宅で暮らす高齢者の血圧は居間が9℃程度の時は155～176mmHgだったが、室温が14℃と暖かい場合は130～160mmHgと低くなっていた。平成11年基準を満たした住宅で

図① 収縮期（最高）血圧の平均値の年次推移
（20歳以上）（2004年～2014年）



図② 収縮期（最高）血圧が140mmHg以上の者の割合の年次推移
（20歳以上）（2004年～2014年）



※血圧を下げる薬の使用者含む。
※2回の測定値の平均。1回しか測定できなかった者については、その値を採用。

出典：厚生労働省「平成26年 国民健康・栄養調査」

あれば、暖房を止めても14℃程度を保てるだけに、既存住宅でも断熱リフォームなどを行い、住宅の断熱性能を高めることで、血圧を低く抑えられ、心筋梗塞や脳梗塞などを発症するリスクを減らせる。

男性の約3割、女性の約2割が肥満

「身体状況及び糖尿病等に関する状況」（20歳以上の男女）では、「肥満及びやせの状況」についても調べている。肥満も生活習慣病として様々な病気を招く要因だが、体格を表す指標であるBMIを用いて判定したところ、男性の28.7%、女性の21.3%が肥満であることが判明した。

10年前の2004年では男性が28.4%、女性が20.6%とこの10年で大きな変化は見られない。年齢別に見ると、男性では50代が34.4%で最も肥満の割合が高く、20代が20.9%で最も低い。女性は70代が24.7%で最も高く、20代が10.4%で最も低くなっている。

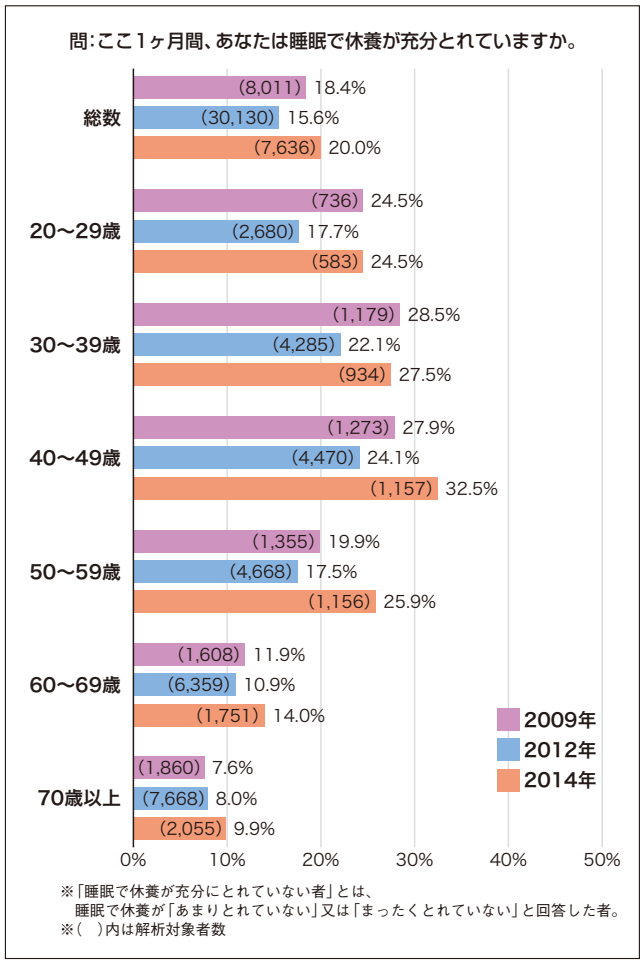
そうしたなか「糖尿病が強く疑われる者の割合」（20歳以上の男女）では、男性で15.5%、女性で9.8%を占めた。年齢別に見ると、男性では70歳以上で22.3%なのに対し、20代、30代では0%。女性も70歳以上で17.0%なのに対し、20代では0%、30代で1.4%となっている。肥満や糖尿病のリスクは高年齢になるほど高まるようだ。

運動習慣のある者は男女とも約3割

健康を維持するためには、習慣的な運動が重要になる。「身体活動・運動及び睡眠に関する状況」では「運動習慣者の状況」（20歳以上の男女）も調べており、運動習慣のある者の割合は男性で31.2%、女性で25.1%。10年前の2004年では男性が30.9%、女性が25.8%なので大きな変化はないように見えるが、2012年では男性は36.1%、女性は28.2%だったので、この数年は減少する傾向が見られる。とくに男性では30代が13.1%、女性では20代が10.1%と、若年で割合が低くなっており、若年者の運動習慣を高める必要がありそうだ。

ちなみに、「1日の歩数の状況」（20歳以上の男女）は、平均値で男性が7043歩、女性が6015歩。こちらは男性の場合、30代が8488歩で最も多く、女性は20代が7028歩で最も多くなっている。

図③ 睡眠で休養が充分にとれていない者の割合の年次比較
（20歳以上、男女計・年齢階級別）



出典：厚生労働省「平成26年 国民健康・栄養調査」

睡眠で休養が充分とれていない人が増加

一方、「睡眠時間の状況」（20歳以上の男女）では、1日の平均睡眠時間は「6時間以上7時間未満」が男性で34.4%、女性で33.9%を占め最も多かった。

ただし、「睡眠で休養が充分にとれていない者の割合」（20歳以上の男女）は、2009年、2012年、2014年の推移を見ると、増加する傾向にある。全体では2009年が18.4%だったのに比べて2014年では20.0%と2割に達した。

年齢別に見ていくと、30代で27.5%、40代で32.5%、50代で25.9%と高くなっており、働き盛りの年代で睡眠で休養が充分にとれていない状況が浮き彫りとなっている。

血圧や睡眠の状況などは、住環境を改善することで、良好な状態を保てる可能性が高いだけに、今後、住宅業界でも健康に寄与する住まいづくりを積極的に進める必要がありそうだ。

●住環境と健康に関する研究については、メディアレポート2014年9月号～2015年1月号の「窓通信」で、慶應義塾大学の伊香賀俊治教授が詳しく紹介していますのでご参照ください。

連載 ⑫

追跡!!
リフォーム
最前線

（一財）ベターリビングが50代からの健康応援サイトを開設

住まいの暖かさと健康の関係を紹介

（一財）ベターリビングが50代の女性に向けた健康応援サイト「住まいで元気NAVI」（http://www.cbl.or.jp/slc/BL_site/top.html）を開設した。コンテンツ「住まいの暖かさと健康」では、医学博士の高橋龍太郎先生の監修のもと、住まいの暖かさとそこに住む人の健康との関係について、最近の研究結果などとともにわかりやすく解説している。

「住まいで元気NAVI」は、自身のこれからや親のことなどを身近なこととして感じ始める50代の女性に向けた住まいと健康の応援サイト。高齢期になっても安心して暮らしていくための、住まいと健康に関する情報を中心に発信している。

「住まいの暖かさと健康」「住まいの安全」「住まいの将来」「住まいを活かす」「住まいを楽しむ」といったコンテンツを用意している。このうち「住まいの暖かさと健康」では、医学博士で医療法人社団 充会 上川病院の高橋龍太郎院長の監修のもと、ヒートショックによる健康被害の具体的な防止策や、暖かく住まうことと健康との有効な関係などについて情報提供を行っている。健康長寿住宅エビデンス取得委員会（高橋龍太郎委員長）が「住まいの暖かさと高齢者の健康の関係」を明らかにするために実施した実証実験を紹介。室内を暖かく保つことで血圧が低下することや、断熱リフォームによって起床後の血圧上昇が抑制されることなどをわかりやすく解説している。浴室や脱衣室、トイレなどを暖かくするといったヒートショックの防止方法についても具体策を示している。

さらに、高橋龍太郎先生による「専門家が語る 50代からの健康維持法」や、国立研究開発法人 建築研究所の坂本雄三理事長による「専門家に聞く 省エネ住宅は健康住宅」といったコーナーも設けた。自身が高齢期になる前に、住まいと健康を考えるきっかけをサポートできる情報発信を目指している。

「住まいで元気NAVI」のトップ画面

高齢期の住まいづくりをサポート

また、「住まいの安全」では、バリアフリーや耐震、親の見守りなど、将来にわたって安全に暮らせる住まいにするための情報について、事例を交えて具体的に提供している。

また、この先、どこで、どんな暮らしがしたいのかによって、現在の自宅をどのようにするのか変わってくる。「住まいの将来」では、自宅に住み続けるのか、住み替えや移住するのかなど、様々な選択肢に応じて、対応策や必要となる知識を紹介している。

「住まいを活かす」では、片付けや収納の方法を紹介。掃除を職業としているプロから掃除のテクニックや掃除が楽になる機器についても学べるようにした。「住まいを楽しむ」（近日公開予定）では、夫婦で、あるいは家族で楽しく暮らしていくための、暮らしを豊かにするアートやインテリア、ホームファッションの情報を提供。ホームパーティの催し方なども紹介する。

This is YKK グループ

ロンドンにショールームをオープン

ファッション業界に情報を発信、交流の場としても活動

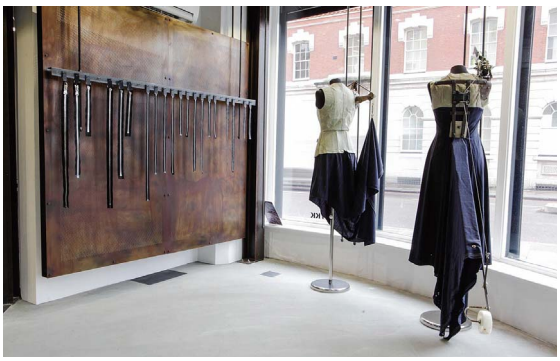
YKKのヨーロッパ現地法人YKKヨーロッパ社が、英国ロンドンのショーディッチにショールームをオープンしました。ファッション業界に向けた情報発信のほか、業界関係者や学生などに向けた各種イベントを展開します。

新たにオープンした「YKK London Showroom」は、ファッション業界に向けたYKKの情報発信基地となります。

各種カタログ展示や展示会出展商品の最新サンプルを豊富に取り揃えるだけでなく、最高級のファスナー「Excella® 」とスナップや金属ボタンなどのYKKファスニング商品の販売を実施します。ショールーム内にスナップ・ボタンの取付機を設置し取付サービスも行います。今後は、英国ファッションバイヤーを中心に、ファッション業界関係者との交流の場として活動していきます。

また、各種のイベント開催により、業界の活性化に取り組み、特に学生支援を展開します。例えば、YKKが2005年から協賛している学生向けファッションデザインコンペティション「International Talent Support」の作品展示を行うなど、将来を担うデザインスクールなどの学生をサポートします。

現地時間の12月4日に、お客様やデザインスクール関係者など約100人を招き、オープニングイベントを開催しました。



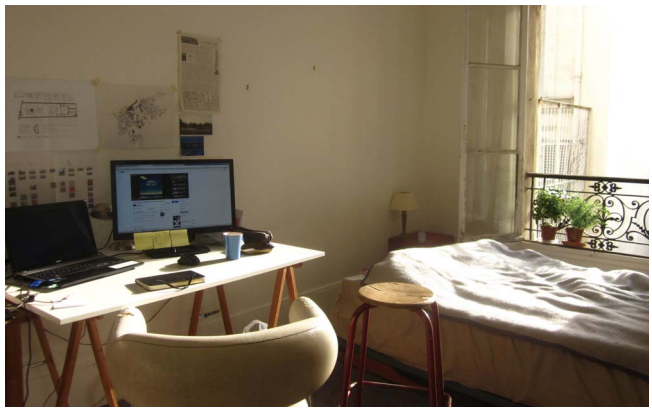
窓研究所
WINDOW RESEARCH INSTITUTE

ウェブサイトにて海外レポート最新記事を公開

異国で活躍する建築家 舟木嶺文（TeePee Architects）
パリ窓コラム「フランス窓 ―パリの呼吸と眼―」

私たち窓研究所は、窓を多角的に研究する活動“窓学”を進める一方、窓研究所公式ウェブサイト限定のコンテンツも合わせて制作、公開しています。人気コンテンツのひとつ「海外レポート」では、フランス・パリを拠点に活躍する建築家・舟木嶺文氏（TeePee Architects）からのレポートを連載中。最新記事の冒頭を、メディアレポートでも少しご紹介します。

私がパリで生活を始めて 6 年が経った。自身の日々の生活が常に変化する中で、パリの街並みは変わることなくそこにあり続ける。通りやセーヌ川の向こう岸に見える小さな窓が並ぶ壁の風景は、私がここにくるずっと前から変わることなく、また室内から窓越しに見える通りの往来は非日常のような賑わいを感じさせる。



現地レポートならではの細かな視点で生活、建築、窓について綴られています

詳細はWebsiteにて――― madoken.jp

Twitter @madokenjp Facebook 窓研究所

窓研究所は 2013 年度、窓文化創造に向けて、窓に関する知見を蓄積・発信し、窓を考える場を提供することを目的として発足しました。「窓は文明であり、文化である。」という思想の下、諸活動に多角的に取り組んでいます。

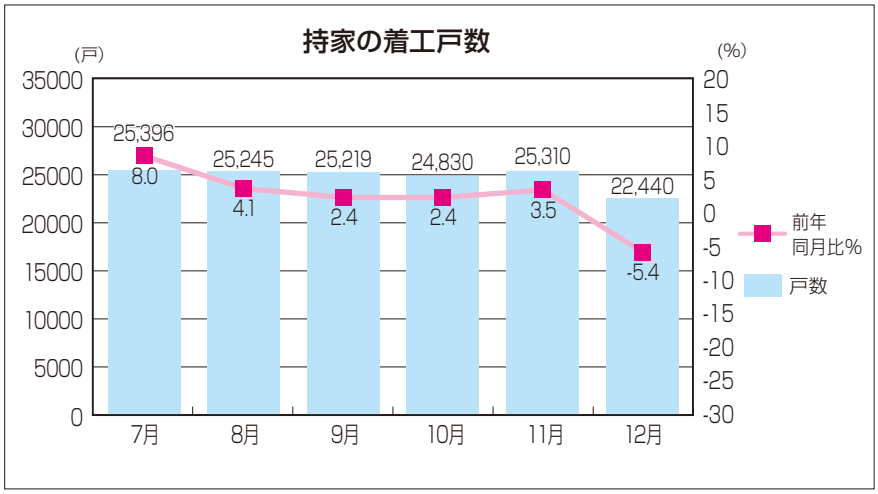
窓通信は今号の掲載をもちまして最終回とさせていただきます。今後もWebサイトにて情報発信しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

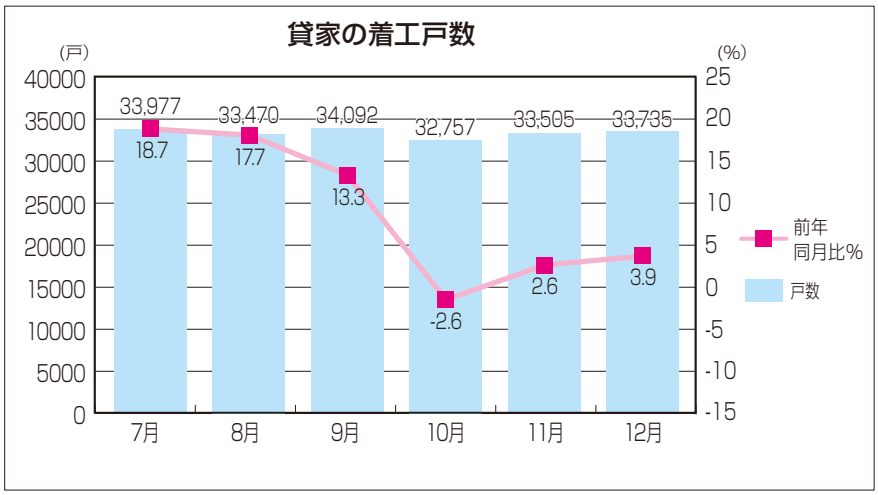
12月の住宅着工は、前年同月比1.3%減

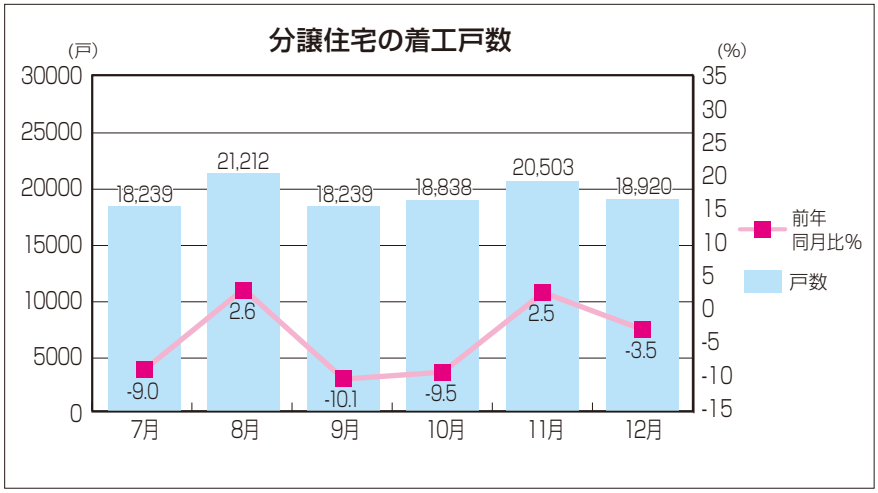
貸家は増加、持家・分譲は減少

総戸数	持家	貸家	分譲住宅	一戸建（分譲）	マンション（分譲）
75,452戸	22,440戸	33,735戸	18,920戸	11,188戸	7,534戸
前年同月比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	前年同月比
1.3%減	5.4%減	3.9%増	3.5%減	3.9%増	13.5%減
2カ月ぶりの減少	8カ月ぶりの減少	2カ月連続の増加	2カ月ぶりの減少	2カ月連続の増加	4カ月連続の減少

	着工統計	
	12月分	前年度比
全　国	75,452	△ 1.3
北海道	2,759	0.9
青　森	541	4.8
岩　手	680	△ 10.2
宮　城	2,366	36.5
秋　田	285	△ 9.2
山　形	437	12.6
福　島	1,498	3.5
茨　城	1,703	△ 19.6
栃　木	1,067	0.5
群　馬	1,099	△ 2.7
埼　玉	4,951	△ 5.5
千　葉	3,435	0.7
東　京	11,801	3.5
神奈川	6,131	△ 0.8
新　潟	900	△ 15.1
富　山	415	△ 20.8
石　川	645	33.0
福　井	312	22.8
山　梨	369	△ 35.6
長　野	885	△ 14.6
岐　阜	836	△ 10.4
静　岡	1,883	0.6
愛　知	4,871	2.1
三　重	806	△ 7.8
滋　賀	585	△ 25.4
京　都	1,114	△ 28.4
大　阪	5,856	4.5
兵　庫	2,458	△ 11.1
奈　良	467	△ 13.4
和歌山	544	44.7
鳥　取	212	△ 16.5
島　根	406	15.0
岡　山	1,018	3.4
広　島	1,641	20.7
山　口	634	△ 22.5
徳　島	347	△ 32.9
香　川	422	△ 26.7
愛　媛	632	12.1
高　知	182	△ 2.7
福　岡	3,405	11.3
佐　賀	296	△ 46.0
長　崎	493	10.8
熊　本	844	△ 21.9
大　分	595	26.9
宮　崎	483	16.4
鹿児島	837	△ 15.1
沖　縄	1,306	△ 4.5







数字、言葉の定義は国土交通省の建築着工統計に基づく
分譲住宅の戸数の合計は、一戸建、マンション、その他の合計

続々
オープン!!

2016年4月に2カ所新設

TDY金沢コラボレーションショールーム
TY熊本コラボレーションショールーム

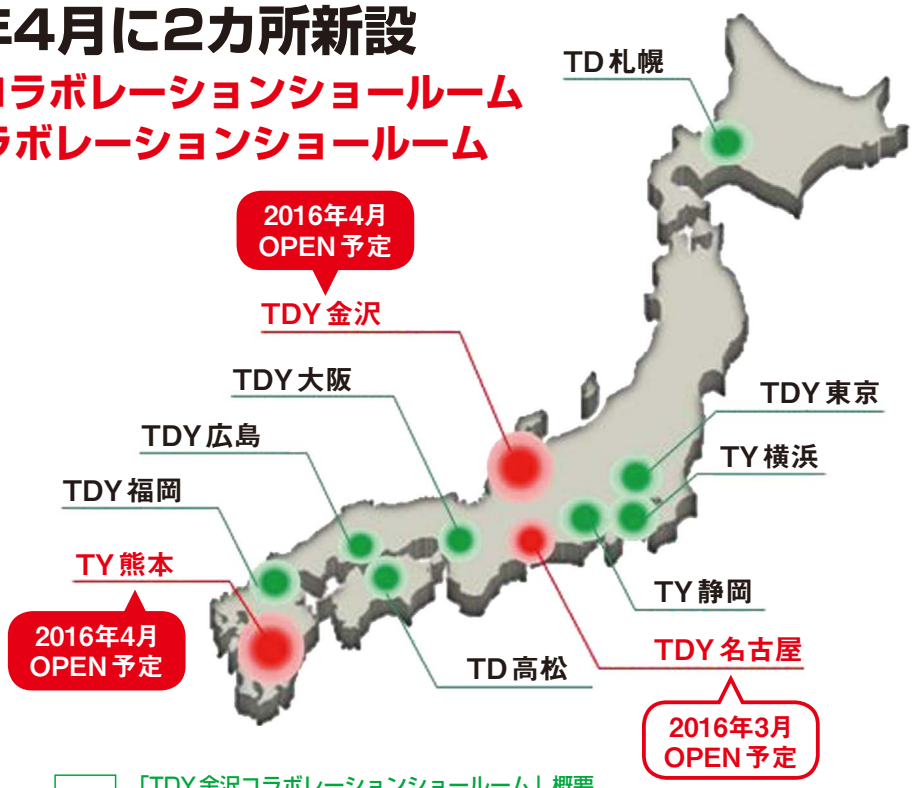
GREEN
REMODEL

TOTO、DAIKEN、YKK AP（TDY）は、お客様への情報発信やご提案の場として、全国主要都市にコラボレーションショールームを展開しています。

2016年4月、「TDY金沢コラボレーションショールーム」および「TY熊本コラボレーションショールーム」を新たにオープンします。

TDY3社運営としては6カ所め、TY2社運営としては3カ所めとなるショールームです。

TD2社運営の2カ所とあわせ、全国11カ所のコラボレーションショールームを展開し、お客様へのご提案をさらに充実させていきます。



金沢 「TDY金沢コラボレーションショールーム」概要

名称：TOTO　DAIKEN　YKK AP　金沢コラボレーションショールーム
所在地：〒920-8201　石川県金沢市鞍月東2丁目11番地
交通案内：JR金沢駅西口より車で約8分
展示面積：約344坪（TOTO約209坪、DAIKEN約58坪、YKKAP約77坪）
建物：鉄骨造3階建

熊本 「TY熊本コラボレーションショールーム」概要

名称：TOTO　YKK AP　熊本コラボレーションショールーム
所在地：〒860-0832　熊本県熊本市中央区萩原町17番地53号
交通案内：JR豊肥線平成駅より徒歩8分
展示面積：約196坪（TOTO約121坪、YKKAP約75坪）
建物：鉄骨造2階建

3月カレンダー

月日	曜日	六曜	十二直
1日	火	大安	定
2日	水	赤口	執
3日	木	先勝	破
4日	金	友引	危
5日	土	先負	危
6日	日	仏滅	成
7日	月	大安	納
8日	火	赤口	開
9日	水	友引	閉
10日	木	先負	建
11日	金	仏滅	除
12日	土	大安	満
13日	日	赤口	平
14日	月	先勝	定
15日	火	友引	執
16日	水	先負	破
17日	木	仏滅	危
18日	金	大安	成
19日	土	赤口	納
20日	日	先勝	開
21日	月	友引	閉
22日	火	先負	建
23日	水	仏滅	除
24日	木	大安	満
25日	金	赤口	平
26日	土	先勝	定
27日	日	友引	執
28日	月	先負	破
29日	火	仏滅	危
30日	水	大安	成
31日	木	赤口	納

「さんりんぼう」とは昔から普請初め、柱立て、棟上げなどには大凶とされ、もしもこの日を用いて施工した家屋が後日災禍を起こした場合、近所となりをも亡ぼすとされています。

YKK AP株式会社
〒101-0024　東京都千代田区神田和泉町1
http://www.ykkap.co.jp/

2016年2月25日発行　Printed in Japan

商品に関するご相談、お問い合せは
■一般のお客様　0120-20-4134
■建築・設計関係者様　0120-72-4134
受付時間　月～土 9:00～17:00
（日・祝日・年末年始・夏期休暇等を除く）

●お問い合せ、ご用命は……

メディアレポートを送付させていただいている皆様からお預かりした個人情報は、その利用をメディアレポートの配布に限定した上で、万全の管理を行っております。送付の中止や宛先等の変更がございましたら、左記宛てにご連絡ください。
http://www.ykkap.co.jp/privacy/index.aspもご覧ください。

※本紙上で使用する「APW」「APW ツーアクション窓」「窓研究所」「グリーンリモデル」は、YKK AP株式会社の出願・登録商標です。